彼方【かなた】

校長通信
H31.3.12
Vol.32

【卒業式　式辞】

平成最後の年、そして創立四十周年という記念すべき今年度、卒業される二四一名の三年生の皆さん、卒業おめでとう！

保護者の皆様、義務教育九年間、決して楽なことばかりではなかったと思います。無事に本日を迎えることができましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、このよき日に　我孫子市教育委員会教育委員 蒲田知子 様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、「第四十回卒業証書授与式」を挙行できますことに大きな喜びを感じております。本校教職員を代表し、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、この祝辞が皆さんへの私からの最後の授業になります。最後のテーマは「充実した人生とは何か？」です。

始業式の話しの中で「メメント・モリ」という言葉について話しました。覚えていますか？「人はいつ死ぬかわからない。最善を尽くせ！」という意味でした。皆さんは中学校生活で「最善を尽くす」ことができましたか？「最善を尽くす」というのは、自分ができることを考えて、今を変えることです。結果ではありません。うまくいかないときでもそこに至るまで自分で考えうる最善の取り組みをし、「今を変えようとしてきたか？」と言うのが「メメント・モリ」の意味です。

皆さんが入学して三年間、白山中学校は皆さんの手で大きく変わりました。一番変わったのは、「挨拶」です。皆さんが二年生になり、先輩から部活動を引き継ぐと、今までにないぐらい大きな声で挨拶する部が増えてきました。朝練習の様子を見に行くと、遠くからでも私に声をかけてくれたのは本当に嬉しかったです。学校の中の「挨拶」が目に見えてよくなっていったのはその頃からだったと思います。三年生の夏の大会やコンクールでは、結果につながらなかった部もありましたが、そこに向かうプロセスは、まさに白山ブランドでした。なぜなら皆さんが目指したものが「応援される部」とか、「元気を届ける試合をしよう」とか、自分たちを支えてくれた人達に対する感謝の気持ちを込めた目標を掲げて頑張っていた部が多かったからです。お陰で本当に良い「挨拶」が広がってきました。

次に変わったのが「行事に向かう姿勢」です。先生に言われたからやるのではなく、何のために、どうしたら良くなるかを考え、行動する人が、本当に増えました。その成果が体育祭や合唱コンクールでの皆さんの姿だと思います。これも白山中ならではの取り組みとなりました。「観に来てくれた保護者の皆さんや地域の皆さんを元気にしよう！」とか「自分たちの歌声を聴きに来てくださった皆さんに感動を届けよう！」と言うのも変化を作り出すきっかけになったと思います。この卒業式でも、在校生の教室に出向き「自分たちは、今までにない白山中の歴史に残るような卒業式にしたい。皆さんに協力してほしい！」自分たちの思いをストレートに伝え、在校生を巻き込みながら取り組んできました。思いは伝わっています。

まだまだありますが、最後に大きく変わったことが「授業」です。皆さんはアクティブラーニングを受け入れ、仲間と一緒に授業を作ることに真剣に取り組みました。わからないことがあれば、仲間に聞き、相手がわかるまで説明する、できたことやわかったことを仲間同士で共有し、次に生かす、将来本当に必要な「自分で考え、仲間と議論しながらこの解決を図る」という力を磨いてきたのです。

「皆さんの中学校生活は充実していましたか？」充実した人生とは、時間の長さではありません。どんなに短くても変化を創り出し、何かを成し遂げた経験が、その人の人生を充実したものにしてくれます。それも、自分自身や周囲の本当の「笑顔」を作り出そうとして、自分で考え、動き続けたときに充実感が得られるのです。

新しい時代が目の前に迫っています。これまでに経験したことのない大きな時代の変化です。その未来をよりよく作り上げ、沸き起こる様々な問題を解決してくのは皆さんの世代です。私は、皆さんと一緒にこの白山中で過ごせたことを本当に誇りに思います。ありがとうございました。

結びになりますが、本日ご臨席を賜りました多くのご来賓の皆様には心より御礼申し上げます。今後も温かく卒業生並びに白山中学校へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げ、式辞とします。